

看護学部 十周年を記念して

名古屋市立大学看護学部は、名古屋市立大学の第6番目の学部として、平成11年に現在の桜山キャンパスに開設いたしました。看護学部看護学科の教育理念は、人間の尊厳を理解し、看護を通じて保健・医療・福祉に貢献できる人材を育成することであり、幅広い教養を基礎とした豊かな人間性を持ち、科学的根拠に基づいて看護実践ができる能力ならびに保健医療サービスに関わる専門職との調整能力を習得できることを教育目標として掲げ、より高度な技術をもった人間性豊かな人材の輩出を目指してスタートいたしました。

さらに、平成15年4月には大学院看護学研究科修士課程が開設（後に博士前期課程と改称）され、平成17年4月には博士後期課程も設置されました。また、平成20年度には、前期課程に助産学分野が追加され、助産師教育が学部から大学院に移行することと併せて、専門看護師課程（クリティカルケア看護学）のカリキュラムが認定を受けることができました。それにより、学部生320名、大学院生63名、教職員45名を擁する学部から大学院までの9年間の一貫した看護学の教育・研究機関としての体制が整いました。

学部開設当初より、ICUや救急看護などのクリティカルな看護から、個人が自分の生活を見直し改善するための支援方法、また、地域に暮らす子ども、高齢者、障害者等の生活が健康的で豊かになるための方法、さらにはそれらに関する施策の企画立案など、様々な専門分野・領域で活躍できる専門職の輩出に努力してまいりました。幸いにも毎年優秀な学生を迎えることができ、10年間でこれらの能力を身につけた卒業生は、すでに560名余りに上り、名古屋市内の病院をはじめ、愛知県内から、東京・大阪等全国の医療保健福祉関連の施設で本学部での学びを生かして社会に貢献しております。大学院におきましても、臨床や地域における課題解決への取り組みやその解決方法の学問的構築等を習得した修了生はおよそ60余名となり、臨床や教育機関で徐々にその能力を発揮しつつあります。

看護学部では、より質の高い教育を実践するために、研究面においても教員個人が市民をはじめ人々の健康の維持や回復に貢献するテーマを持ち、成果を上げるべく取り組んでおります。社会貢献につきましても、大学主催の公開講座はもとより、平成18年より看護学部独自の事業として地域の看護職を対象とした「なごや看護生涯学習セミナー」を開講するなど、地域のニーズを把握

した活動を行っております。

このように10周年の今日、名古屋市立大学看護学部の充実した教育・研究及び社会貢献の活動の様子を皆様にご報告出来ることは幸いに思います。これには、設置者である名古屋市、理事長はじめ大学関係者、また初代・小玉香津子学部長、二代目・久米和興学部長を始めとする本学部の元教職員の皆様には、その時々のご苦労が今日の看護学部の礎となっていると感じ、深く感謝いたします。さらに、市民の皆様、県内各市町村の保健・福祉・医療機関、他大学、各高等学校などの方々からも、それぞれの立場からご支援やご協力をいただきました。名古屋市立大学看護学部が今日を迎えることができましたのも、一重に各方面にわたる多くの方々のご尽力、お力添えの賜であり、厚くお礼申し上げます。

また、この間の平成18年には、名古屋市立大学は、公立大学法人として新たなスタートを切りました。今後は長中期的な計画にそって学部としても個々の目標を到達すべく日々努力して進んで行かなければなりません。これまでの方法を踏襲するだけでなく、人々の健康・福祉に貢献する教育・研究・社会貢献等について新たな方針や戦略を立て、教職員及び学生それぞれがその目標に向かい邁進していくことが求められています。10周年の節目にあたり、過去を振り返ることで、将来の方向性を確認することができました。

最後に、看護学部の益々の発展のために、皆様方これまでと変わらぬご指導とご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成21年10月 吉日

名古屋市立大学
看護学部長

山田 紀代美